

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391100100		
法人名	社会福祉法人 昌明福祉会		
事業所名	グループホーム 結		
所在地	愛知県名古屋港区寛政町6丁目25番地		
自己評価作成日	令和1年10月23日	評価結果市町村受理日	令和2年3月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2391100100-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2391100100-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
訪問調査日	令和1年12月2日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人理念の「大悲大慈」を元にし、結の理念である「福祉は人 人は心 心とこころ」を意識し入居者様の心と向き合う事を大切に、自身の人生観を養い、人としての成長を職員一同目指している。入居者様の個々のレベルに合わせた介助・声かけ・関わりを続ける中で状況の変化が有っても馴染みのある環境、慣れた場所・顔ぶれで安心して過ごす事ができる介護技術・関わりを身につけて提供できるよう心がけています。変化の少ない方には変わらずの外出、馴染みの暮らしを通じての関わりも継続しています。今後も、「明るさと笑顔あふれる場所づくりに努めます」をモットーに運営を心掛けていきます。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小規模多機能型居宅介護事業所やデイサービス、サービス付き高齢者住宅、地域包括支援センターが併設された複合施設の2階にホームが位置している。近くには、荒子川公園や大型ショッピングセンターなどがあり、日常の散歩や買い物など楽しみながら生活支援ができる環境にある。ホームのドアを挟んで小規模多機能型居宅介護事業所があり、行事やレクリエーションなどを一緒に楽しんでいる。職員は、入居者が日々の暮らしの中で、「今～がしたい」という思いに応え、「できることは自分で」、「お互いに助け合っていけるように」、「地域に出ていく」を心に刻み、いつまでも元気で生きいきと過ごせるように、入居者と向き合いケアに繋がれるように努めている。入居者の作品や絵が廊下に飾られ、落ち着いた雰囲気空間となっている。窓越しに外の景色が眺められるコーナーに大きなソファが置かれ、腰掛けてテレビを見たり、食卓で新聞を読んだり、入居者同士でお喋りを楽しんだりして、思い思いの時間を過ごしている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念・施設理念を朝礼時に唱和し、施設理念でもある人と人との触れ合いを大切に、かけがえのない時間の提供とはと常に意識しながら、行動をしている。	法人の理念を基に事業所独自の目標を設定し、朝礼で唱和し、共有して日々の実践に繋げるようにしている。入居者にとってかけがえのない時間の過ごし方とはどのようなものなのかを考え、職員一人ひとりが入居者に寄り添い、笑顔で感謝の気持ちを持ってケアをするように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議にて地域の情報を聞きながら、地域のお祭り、学校行事等の見学などを行っているのと、訪問もして頂いている。	法人として町内会に加入し、地域情報を得ている。保育園の運動会や敬老会、中学校の運動会見学などを通して交流をしている。荒川公園で開かれる季節のイベントに出掛けたり、地域のボランティアの受け入れや、神社の清掃など地域の一員として関わりを大切にしている。また、実習生を受け入れ地域に貢献できるよう努力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の介護事業所の部会に所属し、毎年介護フェアなどのイベントに参加し、認知症や介護についての理解や支援の方法について啓発したり、相談会を開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回開催する会議の中で、意見を交わし、サービスの向上に活かしている。参加者より地域の状況説明を受けニーズの把握に努めている。	入居者や家族、民生委員、老人会長、地域の有識者、いきいき支援センター職員の参加を得て、小規模多機能と合同で年6回実施している。活動報告の他に、身体拘束、感染予防、防災対策などの話題を取り入れ情報交換をしている。家族の参加が思わしくない。議事録は、ファイリングして玄関に置いてある。	運営推進会議に参加できなかった方には、結のおたよりなどを利用して会議録を載せたり、年間計画などで予定を知らせたりして、より多くの家族が参加し、開かれた交流ができるよう事業所から積極的な発信の機会を作るよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議においては、毎回いきいき支援センターの職員さんに毎回出席して頂き、施設の情報も伝えている。また、事故発生時は速やかに報告を行うようにしている。市主催の研修には積極的に参加するようにしている。	更新手続き代行の折に、行政担当者に指導や助言を得ている。また、機会あるごとにサービスの内容を伝えたり困難事例や指定、法律に関する相談などをして協力関係を深めている。市主催の研修には積極的に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0の手引きを用いて、身体拘束とは？から研修を行っている。身体拘束の内容と弊害の理解ををし、拘束しないケアに取り組んでいる。また、言葉による抑制についても意識して取り組んでいる。	身体拘束のマニュアルを通して意識を高め、スピーチロックに配慮した環境造りに努めている。日々の申し送り時や、機会あるごとに拘束に対する話し合いを重ね、職員間で認識の共有を図り、入居者一人ひとりの安全と拘束感のない生活が出来るように心がけている。運営推進会議に研修を実施し、参加者とともに理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングなどで、不適切ケアについて学び自らのケアを振り返る機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は、成年後見制度を利用しておられる方が入居されていたので、ある程度の説明を職員にはしてあったが、職員の入れ替わりもあったので再度周知をしていきたいと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者・計画作成担当で契約時に、契約書・重要事項説明書に基づき十分な説明をして、理解をして頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置をし投函できるようにしている。運営推進会議に参加して下さった際には、必ず意見を聞くようにしている。面会時には、意見や要望を気軽に話せるような雰囲気作りに努めている。	入居者からは日々の関わりの中から、家族からは面会時や行事、運営推進会議、家族会等機会あることに意見や要望を聞くようにしている。ケアや接遇などについて事業所独自のアンケートで満足度を調査し、結果を運営に活かすようにしている。意見や要望は記録をして、カンファレンス等で話し合い運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の中で、意見交換をしている。日常の会話においても意見を出し合える環境にある。また、職員面談を通じて意見や提案を聴く機会を作っている。	日々の業務の中や申し送り時に積極的に聞くようにしている。月1回の職員会議時に職員からの意見や提案を聞き、見直しや改善に向けて話し合い、運営に反映させている。年2回自己評価の機会に職員との個別面談をして、将来に対する目標や意見、要望を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の自己評価、計画作成担当者からの評価を得る中で、管理者と面談を行い勤務の状況や個々の取り組みを評価し、モチベーションアップに繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員それぞれの段階に応じて、内部研修・外部研修への参加を奨励し、勤務の中で参加できるように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加する事で同じ環境の職員との意見交換、交流の機会となり新たに学ぶ良い機会になっています。港区事業者連絡会の施設部会に参加して、情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談では家族介護の状況、本人の不安や希望を十分に聞き取りを行い、思いをしっかりと受け止め、安心して頂ける関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談・見学・自宅訪問・契約の各段階の中で、不安や要望を十分に話せるような働きかけを行い受け止める努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の思いを受け止め、しっかりとコミュニケーションを図り、信頼関係を築きサービスを検討、提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションツール「新聞・テレビ」等を活用し、日常の会話ができるようにしている。また、食事の準備や洗濯物たたみ等を行く時間を持つ事で家族のように接するよう心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出時や行事などには一緒に参加できるように声をかけている。また面会時にも声を掛け生活の様子などを伝えながら希望を伺っている。ご家族様の思いと入居者様の状況を尊重し合えるよう心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの生活・関係が途切れないように努めていくよう、ご家族様の力も借りながら馴染みの習慣・場所へ出掛けたり、個々に合わせた計画を行っている。	これまでの生活歴を把握したり、本人や家族から情報を得て、本人が大切にしていた人や場所、物事が続けられるよう支援に努めている。家族とお参りに出掛けたり、友人が来訪したりなど継続的な交流を大切にしている。洗濯物を畳むなどの家事をしたり、編み物や将棋をして過ごしたりして、今まで培った経験を楽しみながら日常に活かすような支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を見ながら職員が間に入り、見守り・仲裁し・職員も一緒にテーブルを囲み楽しい会話ができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、懐かしくて立ち寄ってみた等と言われ来訪される方もいらっしゃる。また、近所で困っている方がいるなどと紹介を下さる方もいらっしゃる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の入居者様とのさりげない会話、表情などからくみ取ったり、ケアの中から感じ取ったことを共有ノートや朝礼を活用し職員間で共有してケアに繋げている。	入居者との関わりや会話、表情などからくみ取ったり、ケアの中から感じ取ったことや入居者固有の特徴などを申し送りノートや朝礼を活用し、職員間で共有してケアに繋げている。思いの表出の少ない方には、寄り添ってタイミングを見計らって意向を判断したり、家族と情報を共有し一緒に支えていく努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様へは可能な範囲で生活習慣を知るシートに記入をして頂き、生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床・就寝・排泄介助など手を出してしまいがちな事も入居者様が出来る事は実践して頂いている。記録やノート等使用して職員がご本人様の状態を把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様の意向を聞いたり、日常の様子を個人記録に記入した情報を基に担当者や計画作成担当者で介護計画を作成している。月に1回短期目標設定してモニタリング、6か月毎に見直しをしている。	入居者の意向を聞いたり日常の様子を記録した個別記録を基に、家族の意見もふまえて、担当者や介護計画作成者で検討し介護計画を作成している。入居者がより良い暮らしができるよう月1回、短期目標を設定しモニタリングに心がけているが、進捗状況は思わしくない。介護計画は6か月毎に見直しを行い、必要に応じて随時見直している。状況に応じて、医師や看護師に意見を求めケアに活かしている。どの職員も記録内容を共有し、入居者の状態を把握して同じケアができるようにしている。	計画通り毎月のモニタリングを実施していくために、モニタリングと評価を行う仕組みの組み立ての見直しを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に24時間の変化、ケアプランに沿った実践内容・結果を記入し入居者の変化を見逃す事無く職員間で情報の共有をし、計画の見直しができるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内の他の事業所と、ニーズに合わせて柔軟対応ができるように検討し連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や地域の入居者家族様からの情報にて、地域へ出掛けて行く機会を持つようになっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医か提携医かの希望の確認をしている。内科は、月に2回提携医の往診がある。歯科に関しては、週に1回の訪問があり必要に応じて受診ができる。健康状態に変化があった場合は24時間体制で医師に連絡を取り、速やかで適切な医療提供に努めている。	入居時にかかりつけ医か提携医の希望を聞いている。内科は月2回、提携医による往診がある。歯科は週1回の訪問があり必要に応じて受診できる。看護師とも連携を取り健康管理に努めている。健康状態に変化があった時は、24時間対応で医師や看護師と連絡を取り、速やかで適切な医療提供に努めている。専門科については家族の協力により受診を依頼している。受診後は看護師に状況報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護事業所と契約を結び、週に1回の訪問をして頂いている。24時間体制で連絡をすることができる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	グループ内の医療機関を通じて、適切な対応をして外部医療機関との協働を図り、入院された際はご家族様からの状況説明や直接面会に伺い病院からの情報を得る事ができるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合や終末期のあり方についてはご本人・ご家族様と相談し、主治医とのムネテラなどを通して今後の方針を細かく決めている。	入居時に重度化した場合や終末期についての説明をしている。重度化する可能性がある場合には、早めに家族と主治医、看護師を交えて話し合いを重ね方針を確認し、可能な限り希望に添った支援をしている。今後、見取りの研修に積極的に参加し、職員間で共有し医療体制を整えていく方向にある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	グループ内の医療機関と連携しているのと、職員は消防署の救命講習に参加し緊急時に対応できるようにしている。また、緊急対応マニュアルも職員に渡している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回以上の避難訓練を行い、地震や火災などの災害に関し訓練を行っている。運営推進会議時にも周知し、津波などの避難時に事業所の建物に避難して良い事などの協力体制を伝えている。	年2回、併設の施設と合同で昼間、夜間を想定した訓練を実施している。運営推進会議でも防災についての話し合いがされている。地域住民には、事業所の建物が耐震、耐火の基準を満たしていることから地域の一時避難施設として利用できることを説明している。水や食料品おむつ簡易トイレなどの備蓄品は、3日分を確保し各階には自販機を置き災害時の備蓄品の一部としている。	事業所は地域住民の一時的な避難所として利用可能であることを地域に伝えられているので、今後の避難訓練に、地域の方の参加を促す取り組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し誇りやプライドを傷つけないような言葉かけや対応を心がけ、入居者が安心して過ごせるように配慮している。	「人生の先輩」を基本に、入居者一人ひとりのこれまでの生き方を尊重し、声掛けや目線に配慮した支援に心掛けている。職員は、日々の朝礼で、特に雑になりがちな言葉使いや不快にならない言葉掛けに配慮し、「いつ誰が聞いても不快にならない言葉使い」をするよう確認し、支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者のペースですごせるよう、急がせず選択できるまで待ち、ゆったりとした対応を心掛け言動を否定せず傾聴するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大まかなスケジュールはあるが、特に決まった日課はあえて作らない様にし自由に過ごせるようにし、その日の状態に合わせて個別の支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常でも指輪をはめたりし、髪の毛に関しても起床時のモーニングケアを忘れずに行うようにしている。また、理美容に関してもパーマ・カラーも選択できるようにしており、おしゃれを楽しめる環境を提供している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け・洗い物・テーブル拭きなどを他入居者様や職員と行い準備や片付けが楽しい物になるようにしている。入居者様の好みや昔からの食べ慣れたきたものを作る機会を作り、話題提供もして食事の時間を楽しむようにしている。	毎日の食事が楽しみになるよう栄養士により献立が立てられ、厨房で調理された食事を事業所で陶器の器に盛り付けをしている。事前準備や後片付けはその人の能力に合わせて職員と一緒にしている。誕生会でケーキを食べたりカレーライスパーティなどをしたり、たこ焼きやカステラなどのおやつを職員と一緒に作って楽しんでいる。職員は、喫食状況や雰囲気などに配慮しながら食事介助をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日に1000cc以上の水分提供を目標にし、飲みたい時に飲めるような環境作りをし、居室に冷蔵庫を設置している方もいる。栄養面に関しては、管理栄養士の考えた献立で栄養コントロールをし、療養食にも対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声替えをして口腔ケアを行っている。歯科衛生士から定期的に、口腔ケアの指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄パターンを把握する為に、排泄のあった時に時間・状態などのチェックを記しその方にあった排泄環境を整えるようにしている。	座位での排泄支援に心がけている。排泄チェック表を参考に一人ひとりに寄り添い、声かけやタイミングなどを工夫し、仕草や表情なども見逃さないようにして支援をしていくように努めている。夜間でも、尿意を感じ自分でトイレに行くことを大切に、丁寧な見守りの支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給と適度な運動を心掛けている。また、便秘になりやすい人に関しては、個人で乳酸菌飲料を購入して頂いて飲んで頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の体調を考慮しながら、週に2～3日は入浴ができる環境を作っている。拒否がある時はタイミングを計り、時間を変えたり対応する職員を交代して声をかけるなど個々に合わせた対応をしている。	入浴は週2回夕食前の時間に実施している。希望があれば臨機応変に対応している。湯の入れ替えは毎回行っている。冬季はヒートショックに配慮したり、就寝前に足浴をして身体を温め気持ちを和らげるなどして個々に合わせた入浴を支援している。季節を感じるゆず湯やしょうぶ湯も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に体を動かす時間と頭を使う時間を作り、しっかりと覚醒して頂き夜間にしっかりと睡眠がとれるようにしている。フロアでは、遅くまで起きている方に温かい飲み物を提供し職員が寄り添い支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報を個人ファイルにて保管し、いつでも職員が確認できるようになっている。変更があった場合も往診記録などで確認ができるように記録をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力や好みに合わせた活動の他、回想法・学習療法などの導入により生活の活性化を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段の外出に関しては、地域の公園や地域の行事に参加するなどの外出を行っている。個別の外出は、ご家族協力の基で対応をさせて頂いております。	天候が良い日には近所の公園や地域行事に参加し、地域の方と挨拶や会話をし交流を図っている。普段行けない所や外食は家族の協力を得て外出したり、水族館やショッピングセンターへの買い物などに出かけている。	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけるよう支援については、まだまだ検討の余地があると考えられる。ベランダで菜園を楽しんだり、四季の移ろいを感じながら職員と一緒に周辺を散歩するなど、日常的に外に出る機会の工夫を期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様に理解をしてもらい、実際にお金を持っている方もいらっしゃる。週に1回程買い物に行きたい方がいらっしゃるの、買い物や外出の希望をくみ支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	あまり電話をかけたいと言われる方がいないのと、手紙に関してはご家族様から入居者様から普段返信を書く機会はないが年賀状は書くようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングスペース・食事スペースがあり、生活にメリハリをつけている。また、定期的に共有空間に写真を飾ったり手作りの作品を飾ったりし、雰囲気作りを演出している。	リビングは大きな掃出し窓で採光が入り明るく見晴らしもよい。食堂と居間がワンフロアで風通しが良く、入居者の動きや気配がよく見渡せる。リビングには、大きなソファがありテレビを見たり景色を見たりしてのんびり過ごしている。リビングの壁には、絵画や季節の行事の作品が飾られ、大人の空間が作られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	同じゲーム等をやられる方同士・1人でもくもく頭の体操や計算をやられる方など居場所がしっかりと決まってきた。TV前にもソファを配置しゆっくりと過ごされる方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や馴染みの物に囲まれて生活をして頂けるように、ご家族様のご協力を得て配置なども工夫している。また、ご家族様の写真なども持ち込んで頂き、居心地の良い雰囲気作りを工夫している。	居室は、広く開放感があり大きな掃出し窓から採光が入り明るい。使い慣れた筆筒やテレビ、仏壇や冷蔵庫など自宅で使用していたものを持ち込んだり、好みのものを飾って安心して落ち着けるスペースを確保している。清潔保持と安全に配慮して心地よい生活空間作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全ての人に「安心」「安楽」な環境を提供し、心地よく生活できるように支援している。		